

水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

スタウト® パディート® 箱粒剤

病害虫の侵入を許さぬ強固な守り



適用拡大
高密度は種に
対応

は種時から使用可能で、いもち病と
甲虫目・チョウ目害虫に高い効果！



スタウトバディート[®] 箱粒剤

特長

- ① いもち病と主要な水稲害虫に優れた効果
- ② 甲虫目・チョウ目害虫に対して高い効果を発揮
- ③ は種前(床土混和)から移植時まで使用可能

適用病害虫および使用方法

2021年12月現在の登録内容(太字は2021年11月24日適用拡大)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアンロニプロールを含む農業の総使用回数	イソシアニルを含む農業の総使用回数
稲(育苗箱)	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)、内穎褐変病 イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ フタオビコヤガ、ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ、イネツトムシ コブノメイガ、イナゴ類 イネヒメハモグリバエ ヒメトビウンカ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田では2回以内)
	※	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前)～ 移植当日		育苗箱の上から均一に散布する		
	※	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する		
	※	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する		
	※	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する		
	※	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する		
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	1kg/10a	移植時		側条施用		3回以内 (直播では種時又は移植時までの 処理は1回以内、 本田では2回以内)

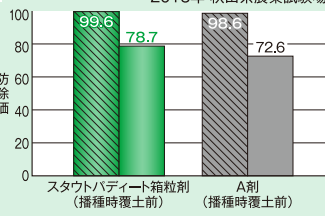
※: 高密度には種する場合は1kg/10a【育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当たり50~100g】

試験成績

■ いもち病

■ 葉いもち □ 穂いもち

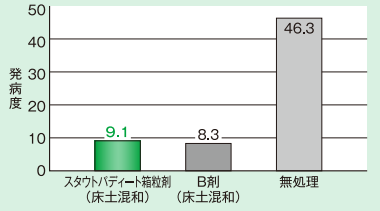
品 種: ナツミノリ
播 種 日: 4月10日 移植日: 5月15日
処理時期: 播種時覆土前
発生状況: 葉いもち: 中発生(接種) 穂いもち: 多発生
調 査 日: 葉いもち: 7月26日(移植72日後)
穂いもち: 9月12日(移植120日後)
調査方法: 葉いもち: 計200株(無処理区は計100株)の
上位2葉について株毎の病斑数を調査し、その
平均値から防除値を算出
穂いもち: 計50株の全穂について発病程度別
に調査し、被害率の平均値より防除値を算出



■ もみ枯細菌病(苗腐敗症)

2013年 滋賀県農業技術振興センター

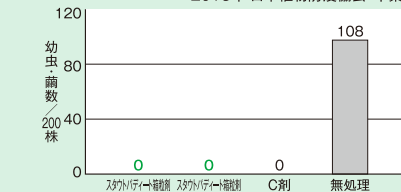
品 種: キヌヒカリ
播 種 日: 10月29日
処 理 日: 10月29日
発生状況: 多発生(接種)
調 査 日: 11月12日(播種14日後)
調査方法: 3ケース(播種量13g/ケース)の
全苗について軽症苗数および
重症・枯死苗数を調査し、発病度
を算出



■ イネドロオウムシ

2013年 日本植物防疫協会・千葉

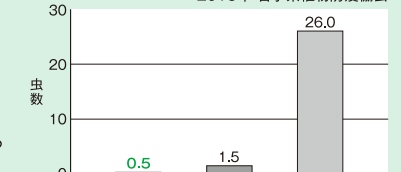
品 種: コシヒカリ
播 種 日: 4月15日
移 植 日: 5月10日
処理時期: 播種時覆土前および
移植当日
発生状況: 多発生
調 査 日: 6月10日(移植31日後)
調査方法: 計200株について幼虫
および繭数を調査



■ イナゴ類(コバネイナゴ)

2015年 岩手県植物防疫協会

品 種: ひとめぼれ
播 種 日: 4月17日
移 植 日: 5月18日
処 理 日: 5月18日
発生状況: 少発生
調 査 日: 7月30日(移植73日後)
調査方法: 各区2カ所を捕虫網による
20回振り取り取り調査



◆ 注意事項

<薬効・薬害等の注意>

- 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。

- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

<安全使用上の注意>

- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 小児の手の届く所には置かないでください。 ● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

2021年12月作成 15,400 全新企画社 P3202111005